

兵庫県南部地震

観音聖教

吉祥会で被災体験を報告

琳主 「共に手を取り合って」

観音聖教（妹尾公運琳主）は岡山県浅口郡鴨方町小坂東二八一五ノ二の総琳壇で三日午前十時半から、節分行事「吉祥会」を執り行ない、兵庫県南部地震の災害に遭った被災地・神戸市などから約四十人が上山。七人が被災体験を語り、改めて地震災害の大きさを自覚するとともに、被災の中で人間として互いに助け合うことの大切さを確認し合っていた。

今年の吉祥会は一月八日から業務移転が行なわれた礼拝殿「珀琳閣」を会場に行なわれ約五百人が参拝。この日は一月二十日から行なわれていた「未来光明功德累積大寒写経行」の結願の日に相当し、午前十一時から妹尾琳主を導師に「おつとめ」。続いて、妹尾琳主は「大震災を共に越え、明日に向かって歩みを進めることが私たちの進む道である。神戸・六甲会の聖衆の方々が元気な姿を見せて下さったので、お一人お一人の生の声を聞かせていただき、共に手を取り合っていこう」と挨拶。同教団の地震災害の被害状況を報告した後、総琳壇へ寄せられた義援金約六百万円が六甲会の代表者に手渡された。

引き続き、被災地の聖衆から「ぜひに……」との依頼により七人が被災の体験を発表した。神戸市長田区で被災した寺田みち子さんは「被災がひどかった中心地にありながらカスリ傷一つせず、元気に過ごせたことが不思議だ。また、この度の災害で人間としての優しさ、慈悲を感じさせていただき、ご本尊の愛と三神の力の偉大さを改めて知らされた」と前置き。「暗闇の中で避難所に向かい、夜が明けると周囲は火の海だった」とその惨状を語り、総琳壇の妹尾匡海参議総長と連絡を取りながら同じ聖衆の家が風向きによって焼失から逃れた経緯を語った。

そして、総琳壇からすぐに駆けつけた救援隊によって届けられた琳主の衣類に対し「若先生（参議総長）がどこをどう通って来られたのか、すぐに駆けつけて下さり、『琳主様が身に着けていた服を受け取って下さい』と渡された時、琳主様の自分が裸になっても私たちを助けて下さろうとしている姿に触れ、これがご本尊様の愛だ。災害に遭ったが、ご本尊様の愛と人間らしく生きる姿を身につけさせていただいた」と、涙ながらに語った。そして「琳主様の早く山（総琳壇）へ帰っておいでよ、という声で生き返った。私たちは死んで生き返らせてもらい、ご本尊様に生きる喜びと人間らしさを教えられた。今日からまた、瓦礫の山の整理に元気に取り組みます」と結んだ。

同じく長田区で被災した森山充子さんは入信して三年目。「ガタンという音で気がついたら家が無かった。しかし、私には何一つ物が当たっていなかった。一瞬にして全てを失って、これからのことを考えると苦しいはずなのに、琳主様の『全てが流される』との教えを思い出し『これからや、これからや』と思えた」と語った。「何もなくなった私に茶碗やコップや衣類まで琳主様から届けていただき、我がことしか考えることのできなかった自分から、いただいた“いのち”の尊さを知らされ、眠りながらでも感謝の写経三十巻ができるようになった」と語った。

同じく長田区で被災した北村良子さんは「ゴーという地響きと共に、グラグラときたと思ったら身体がポンと浮いた。明るくなってみて、私が生きているのが不思議だった」と語り、同じく長田区の園田淳子さんも「同じ地域でも、少し距離をへだてただけで悲惨な状態だった」と語り、教団からいち早く届けられた救援物資に感謝の言葉を述べた。

加古川市の大重美智子さんは総琳壇と連絡を取りながら救援物資を届ける道案内などの手伝いを語り「火が燃え盛る中を行かれた若先生の姿に感動した」と語った。

長田区在住の松友佳子さんは総琳壇に向かう自動車の中で地震を知り、総琳壇と協力し被災地の聖衆の安否を訪ねた体験を報告。「自分の家は無事だったが、本尊と祈祷札を自動車の中に持ち出し、その中で寝たが余震がひどかった」と語った。

ゼロから出発

明石市の永田美徳さんは地震後、神戸市内の会社に駆けつけ、動かなくなったコンピューターを前に「今まで当たり前のよう考えていたことが、僅か二十秒間で全て無くなった。しかし、私の信仰の心はますます堅固になり、二十年、三十年前のような気持でゼロから出発し、出直していこうと思う」と語った。

この後、公運琳主が「人間が人間として、人間らしく生きることを根本に、互いにいたわり、励まし合い、助け合って文化、経済、産業ができる。せめて、観音聖教の聖衆は人間らしい生き方を身につけていこう」と結んだ。

この後、舞殿で聖衆による舞楽が奉納され、公運琳主と舞人らが豆、餅、菓子などを妹尾匡海参議総長の「輝く星よみな来れ、福は内、福は内」の発声に続いて撒いた。最後に聖衆が成満した大寒の写経行の「吉祥札」が下賜され、被災地の聖衆らは、他の聖衆らに励まされながら総琳壇を後にしていた。

被災地から40人が出席した観音聖教の吉祥会【写真は省略】

(c) 1995中外日報社(デジタル化：神戸大学附属図書館)